

## WebSite 版 “日本のレッドデータ”

新里達也・高木圭子(株)環境指標生物) 坪山聡(株)緑生研究所)  
谷川俊治(株)応用生物) 津田朋香(株)地域環境計画)

キーワード：都道府県版レッドデータブック，検索システム，統合カテゴリー

### 1. はじめに

#### 1.1 レッドデータブックとは

レッドデータブックとは、絶滅の危機に瀕している野生動植物の名前を掲載し、その危機の現状を訴え、個体や生息地などの保護・保全活動に結びつけようという目的で出版される報告書である。国際自然保護連合が1966年に、世界の絶滅の危機のある生物種をリストアップした報告書をまとめたのがその始まりである。

#### 1.2 我が国のレッドデータブックと課題

我が国では、環境庁（現環境省）が1991年から整備をはじめ、現在までにほぼ全ての分類群において2回目の改訂作業が終了している。また、各都道府県においても、1995年に4県で発行されたのをはじめとして、2006年までに全ての都道府県のレッドデータブックが発行されている（図1）。

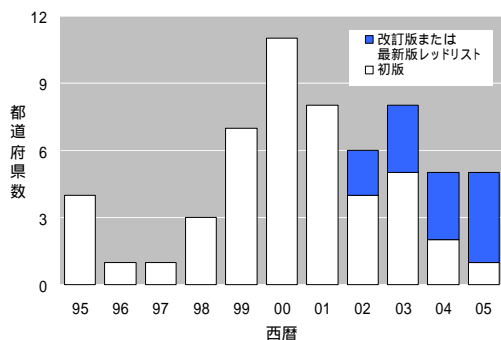


図1 都道府県レッドデータブックの発行数

しかし、各都道府県で選定主体が異なるため、全国を俯瞰した場合に、危機感に温度差があ

るといった問題が指摘されている（芹沢，2003）。しかし、こうした問題を検証する上では、以下の点が障壁となってきた。

都道府県によって採用されている和名・学名が異なり、分類学的検討を要する  
都道府県により危機の程度を評価するカテゴリー区分が異なる

よって、各都道府県のレッドデータを横断的に俯瞰するためには、危機カテゴリー及び生物種の和名・学名の検討が必要である。

### 2. 方法

このような現状を踏まえ、NPO 法人野生生物調査協会の技術研究委員会では、こうした障壁を取り除き、環境省と各都道府県のレッドデータを統合したデータベースを作成した。また、これを様々な切り口から検索し、視覚的に分かりやすい形で出力するシステムとともに、一般に提供することを目指して作業を進めてきた。

#### 2.1 統合データベースの整備

##### a) カテゴリーの統一

各都道府県のカテゴリーを俯瞰しながら、可能な限り統一的な解釈により、表1に示す7つの統一カテゴリーへと区分した。

表 統合カテゴリー

番号	名称
1	絶滅
2	絶滅危惧 類
3	絶滅危惧 類
4	準絶滅危惧
5	情報不足
6	地域個体群
7	その他

### a) 和名・学名の統一

環境省から出版されている日本産生物目録など、分類群ごとに基準となる目録を定め、必要に応じて図鑑や学術雑誌などを参照しながら各県のデータを検討し、基準となる目録に統合した。

### 2.2 検索システムの整備

検索システムの構築にあたっては、分類群、都道府県、種名、危機カテゴリーなど、様々な切り口から素早く必要としている情報にたどりつけるシステムを目指した(図2)。



図2 検索システムの基本フロー

### 2.3 出力様式の検討

最終的な出力様式は、種単位とし、図及び表という2種類の出力様式を切り替えられる方式を考案した。図出力では、全国の情報を視覚的にとらえやすく表示することを目指した。一方、表出力では、各県で掲載されている和名・学名・危機カテゴリーなどの詳細情報を確認できるようにした。

## 3. 結果

### 3.1 ウェブサイト概要

図3に本システムのトップページを示す。トップページから各種検索ページへと誘導す

る仕組みとなっており、さらに各種検索により、検索結果の種名一覧が表示される(図4)。種名一覧は、和名、学名、上位分類群、危機カテゴリーなどによりソートすることができる。また、この一覧表からキーワードによる絞り込み検索も可能である。

このような多面的・複合的な検索により、表示された結果一覧から特定の種を選び出すことができる。



図3 ウェブサイトのトップページ



図4 検索結果一覧表示の例(分類群検索)

